

リハビリテーションの往診に同行して

地域でのリハビリテーションに力をいれてこられた桜新町リハビリテーションクリニック院長 KH先生が、ご縁があってコスモスに来てくださいました。

中途障害を負われたかたは、健康であったときのように行きたいけどできないと、家の中にもってしまいがちです。どうせリハビリしても良くは(障害を負う前のように)ならない、だからリハビリしてもしょうがないとリハビリへの意欲を持つことや、リハビリを継続させることが困難となります。コスモスが関わる利用者さんのなかにも、そのような方がいらっしゃいます。

今回、数名でしたが先生に会っていただきました。会っていただいた方々に先生は、その方が何をしたいかどんな素質を持っているかを引き出してくださいました。

皆さんお話しをした後、笑顔で喜びを話されていました。

そして、中にはリハビリへの気持ちを強く持たれたいサービスへ出られた方もいました。

ありがとうございました！！

【RK】



～KH先生を囲んで～
前列中央：KH先生
前列左側：TH先生

ようこそ、新しい仲間！

『おはな』開設にあたりお世話になります。学生時代からの友人であるAさんから以前よりお話は聞いていましたが、今回『おはな』に携わらせていただけることになりました。富士山に見守られ、自然の中で生まれ育った私にとって、山谷地域の土地柄や人々、そして近隣の町風情といったものは全てが目新しい環境です。

そんな中でわからないことだらけというのが現状ですが、利用者様や地域の方々、職員の皆様に学び教えていただきながら歩んでいければと思います。悲喜こもごも様々なことが待ち受けているかと思いますが、共に考え共に歩み、傍らに身を置き、自身の成長にもつなげていければと考えます。皆様どうぞ宜しくお願い致します。

【NE】



コスモスハウス
おはな

コスモス寿は コスモスハウスを応援します！！



“お金さえ出せば設備の整った老人ホームはいくらでもあるんです。問題は中味です。近未来を象徴しているような寿の街と皆さんのソフトが欲しいんです。自分が入ることを前提にしてナーシングホームを作りたい。同じ地域に少ない年金で何とか生活している一人暮らしの女性がたくさんいて、そういう人たちのためにも何とかしたい。今、自分が死んでも、だれも気づいてくれない、それが一般地区の現状です”と、市内でがん患者の家族の会を主催されているという方が、突然話を聞きたいと来られた。【死んでいく時はだれかに看取ってもらいたい】だれもが思う気持ち。今は人の世話に明け暮れる毎日ですがスタッフの平均年齢の高い寿は、される側になる日も近い、だからあえて コスモス寿はコスモスハウスを応援します。

【コスモス寿 KN】



コスモス新聞 平成2年 春 第3号



開設に寄せて・・・



全員で参加した地鎮祭。鍬入れをするY所長です



昨年暮れ、土台作りが始まりました



初春には1階部分が出来てきました

山谷地域では、病気や障害を抱えながら、多くの方が単身で暮らしています。ときには必要な支援を受けることなく旅館や路上で孤独死する方もいます。

一方で、一旦入院すると地域に戻る場所がなくなり病院や施設を転々とする社会的入院が以前から問題となっていました。更に、近年の医療制度改革による在院日数の短縮化で、適切な行き場が見つからないケースは増え続けています。また、山谷地域に長く住んでいた方の中には、山谷を第二の故郷と慕いこの地域に戻ることを強く希望している方もいます。しかし地域に受け皿が少ないため、遠く地方で入院や入所を余儀なくされている現状もあります。

私たちは訪問看護を通してこうした状況を実感し、この地域でともに暮らしてゆける場を築きたいと考えました。それは単に雨露をしのげる住居という意味ではなく、人と人とのつながりの中で、自分の人生を自分らしく、最期までいきいきと生きぬくことのできる居場所を皆で育ててゆけたらと思っています。

<おはな>とは<家族・仲間>をあらわす、自然や命への畏敬をこめたハワイ語です。ひとりひとりの人間の尊厳を大切に、地域の仲間として、家族のようにともに生きてゆきたい、そんな思いをこめた名前です。

この小さな家が、地域の方々の安らげる居場所となり、最期まで自分らしく過ごせる終のすみかになればと願います。

【NA】



工事中の内部の様です



完成間近です！

NPO学習会 山谷の歴史 生活保護制度と宿泊所

山下所長が講師となり、学習会を開きました。山谷地域の他団体からも沢山の皆さんが集まりました。



第31号

2009年 5月

<本部事務所>
〒111-0021 台東区日本堤1-12-6
訪問看護ステーションコスモス
TEL:03-3871-7228
FAX:03-3871-7229
URL:http://www3.ocn.ne.jp/~s.cosmos/
E-mail:s.cosmos@cronos.ocn.ne.jp
発行責任者:山○真○子
編集委員:奥○大○竹○山○
<編集後記> 今年度も前回と同じメンバーで担当させていただくことになりました。今年も頑張りますのでよろしくお願い致します!(大○)



皆様に支えられて・・・いこいの間コスモスより

ご不が着
寄要不・い
附足靴こ
いたの・間
だがいフ
けあまエ
すまス男
としも夕性
幸たしオ用
いら、ル下

N T K H M R T Y Y M Y
・ ・ ・ ・ ・
M A Y S I A O K O K M
さ さ さ さ さ さ さ さ
ま ま ま ま ま ま ま ま

いこいの間コスモスに
おはなを開設していただき
ありがとうございます。今年度も
皆様のご協力のおかげで、い
こいの間コスモスが、皆様に
支えられて、今年度もいこい
の間コスモスに感謝です！

制作していただきました(おはなの看板)

G・Oさま
A・Gさま
S・Kさま
J・Kさま
きぼうのいえさま
山友会さま
もやいさま
スーパの会の皆さま

*ご寄附ありがとうございました。

*ボランティアさん募集中です！
日用品や食料など、ご支援いただけましたら幸いです。
詳しくはコスモスまでお問合せ下さい。

コスモスハウスおはなより、



おはなのオープニングスタッフです。



* 恒例！デイサービスのお花見 *

3/24(火)~3/26(木)の2日間、隅田公園に行ってきました。今年開花予想が外れてしまい、当日まで天気予報を気にしながらの準備でした。

初日はよりによって気温8度の寒い日に...、みんな毛布をかけながら『さむー！』寒さに凍えながら、花見とは言えず、枝見もせずにおやつを食べる方がメインになっていました。

2日は雨で中止、行く気満々で来所した人に『雨だから中止』と、打ち明けていました。

3日は...風は冷たかったけど日差しは最高、行ってみると1分咲きの状態、炭坑節の音楽が流れる中コーヒー飲んで、おやつ食べて、花をチラッと見ながら大いに楽しんで帰ってきました。

この期に及んで『行きたくない』と言っていた人も『普段は外出できないから』と言っていた人も行く前からソワソワしていた人もやっぱりみんな楽しみにしていたようでした。行けなかった人は残念だったけど、終わりよければ全てよし！



【K.S】

希望の種

利用者様からの投稿です



K.Sさんが十数年前に作成した『汐汲み』の押し絵。プロ顔負けの仕上がります。



T.Tさんとお嫁さんです

・母の趣味 小さな城を花で埋め 造花やっていて 家中が花
 ・最上に 幸いだっただい 老後 いい人に囲まれ 幸せ満ち溢れ

T・T

・梅いちりん いちりんほどに 春が来て 土手のつくしも 顔を出す
 ・旅先に 平家の里の 語り部に みやげはなつかし 木のしゃもじ
 ・菜の花や 友のみやげに 花束を

S・S



・チューリップ 可愛い楽しさ カレンダー
 ・ギヤル同行 買い物楽しい いろは会
 ・静まれる ハープの音色 春の色
 ・介護春 「きぼうのいえ」 住む幸せ

K・I



誕生日の花を抱える さん(左)と久しぶりに訪ねてこられた俳句のお仲間とのツーショットです！



ドクター・リレー



平成6年から外科医を辞めて椿診療所で町医者をしています。椿診療所は昭和23年に父が開業してから60年以上にわたり地域のかかりつけ医として診療を続けてきました。

日に100人を超える患者さんの多くがお年寄りで、待合室はまるで老人会やデイサービスの雰囲気です。私は今年還暦を迎えますが、未だに若先生で通っているのもこの世界ならではのことでしょか。今年89歳を迎える父は100歳まで現役を続けたいと言っていますが、私も最近は体力の衰えを感じ始めており、父とは体力勝負だと思っています。コスモスの皆さんには大勢の在宅患者さんの生活を支えていただくために、いつも並々ならぬお世話になっております。これからも地域医療のベストパートナーとしてお付き合い願えれば幸いです。【椿診療所 院長 T.T】



Y.Sさんに初めて会ったのは去年一月でした。胃がん手術後で貧血もあつた弥一さん。あさひ館に入所した時からからつきが強くベッドから食堂に行く一メートルの距離でさえも力や戸棚などにつかまりながら、やつとの思いでたどり着いていました。食堂に出て来れない時は、施設長が栄養ドリンクを飲ませ家族のように看てくれて私もあさひ館を訪れる度、声をかけ食堂に座っている姿を見ると安心していただけるように思っています。入所から一年後、転んで動けなくなり、手すりを設置しましたが使うこともなく入院に。その二ヶ月後、回復することなくYさんが亡くなったことを聞きまして。その後、施設長とYさんの話をしていた時「人の生命力を繋ぐのは、物理的な手すりよりも「人が支えている力」の方がどれほど大きい」という言葉が今も胸に残っています。そのことを教えてくれたYさん。とても感謝して安らかに眠りください。

【Y・Y】

訪問看護の現場から

コスモスの種を蒔こう！

2月14日に「地域で支える在宅緩和ケア」と題して、東京都在宅緩和ケア支援センター主催の講演会が開催されました。

基調講演は宮崎県でホームホスピスを展開する市原美穂さんのお話、その後のパネルディスカッションの席で私からコスモスの訪問看護の紹介と緩和ケアの事例、またコスモスハウス建設に至った山谷地域の現状などをアピールしてきました。

安心して暮らせる地域づくりを目指してのコスモスの活動に賛同して「定額給付金が出たらコスモスに寄付します！」とあたたかい応援もいただくことができました。

【YQ】



デイサービスの日



デイサービスでは昨年九月から、訪問看護の利用者であるHさんと弟「Kさん」が、千葉から三味線を弾きに来てくださっています。唄い手のHさんMさんと共に民謡を披露してくださり「秋田節」や「十日町音頭」などを、やさしく丁寧に指導してくれています。最近はこちらからのリクエストにも聞いてくださり、「家で練習してきます」と、とても謙虚な楠木さんです。これからもボランティア、よろしくお願いします

【I.M】